

PANalytical 極点データからODF解析の操作性アップ

2016年01月10日

HelperTex Office

概要

極点図からODF解析を行う場合、バックグラウンドの除去は必須ですが、PANalytical社の極点図測定では、測定時にピーク極点図とバックグラウンドの同時測定が実施されていません。

CTRパッケージソフトウェアの入力極点図では、ピーク極点図とバックグラウンド強度は同じファイルに登録されている事が前提になっています。

従来、PANalyticalのxrdmlファイルからAscファイルへの変換と

Ascファイルのピーク極点図とバックグラウンド極点図の結合は別々のソフトウェアで実施し

その都度、ソフトウェアを立ち上げて作業を行っていました。

この操作性向上を目的にソフトウェアの修正を行いました。

以降、操作方法を説明致します。

修正されたソフトウェア

PANatoAsc ソフトウェア(Ver.1.06 以降)

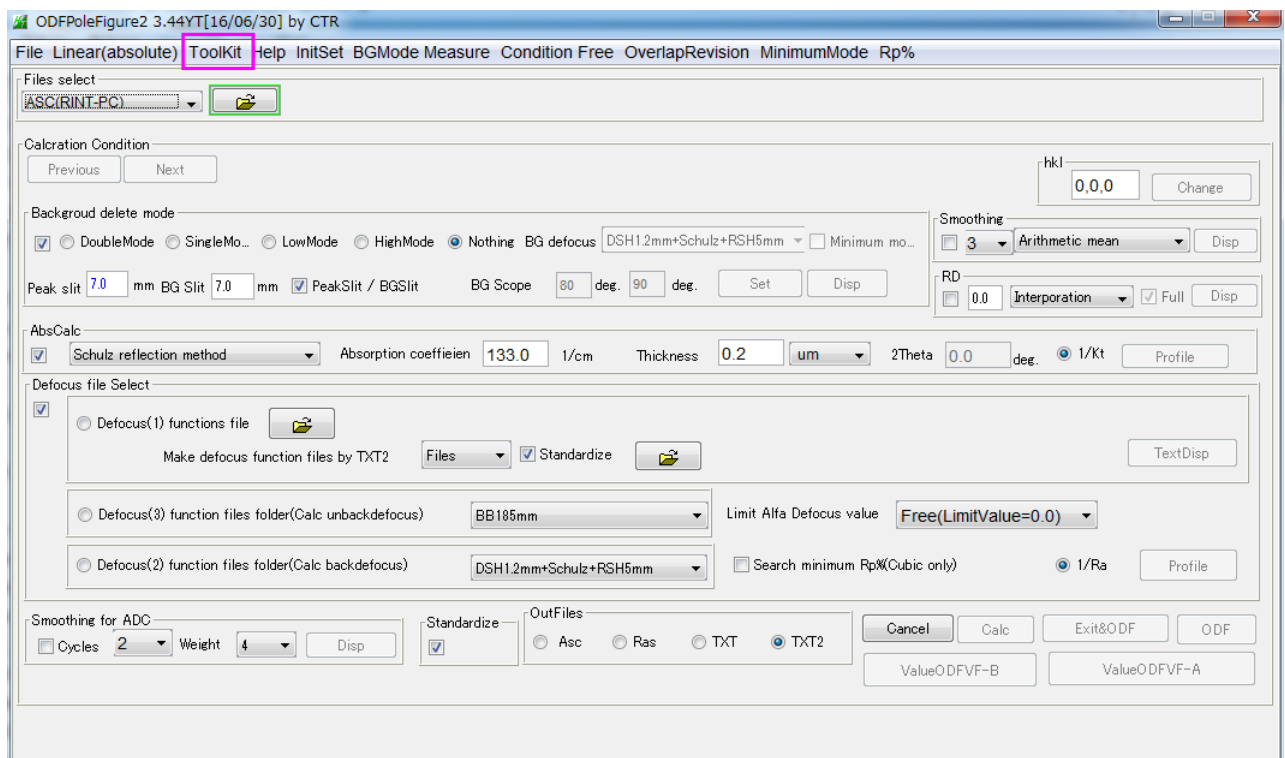
Xrdml ファイルから Asc 変換後、ソフトウェア内部から PluralAsctoAsc ソフトウェアへ Asc データの受け渡しを実現

PluralAsctoAsc ソフトウェア(Ver2.39 以降)

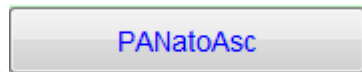
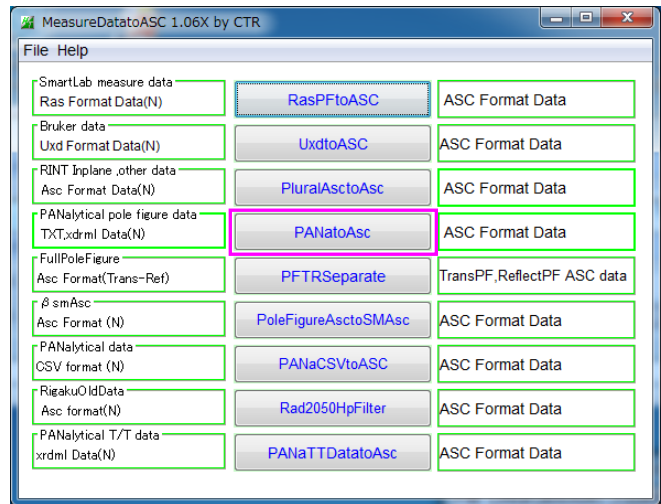
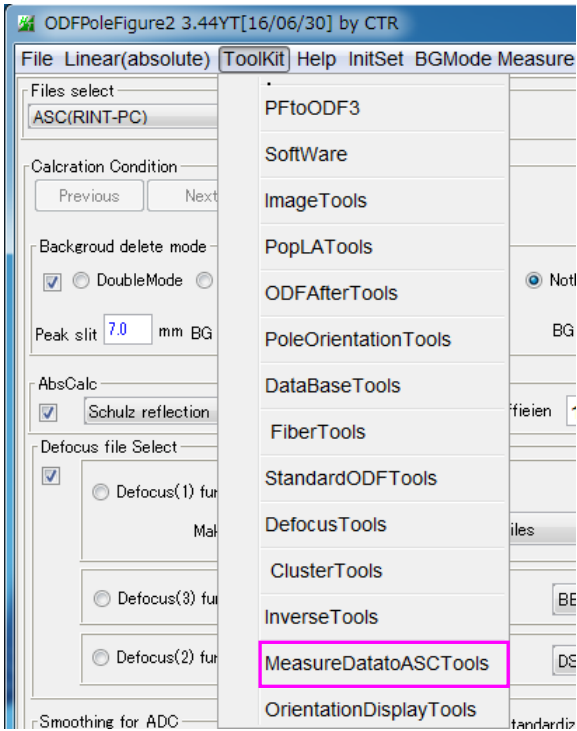
外部から処理ファイルを指定した自動機能を実現

PANalytical 極点データから ODF 解析

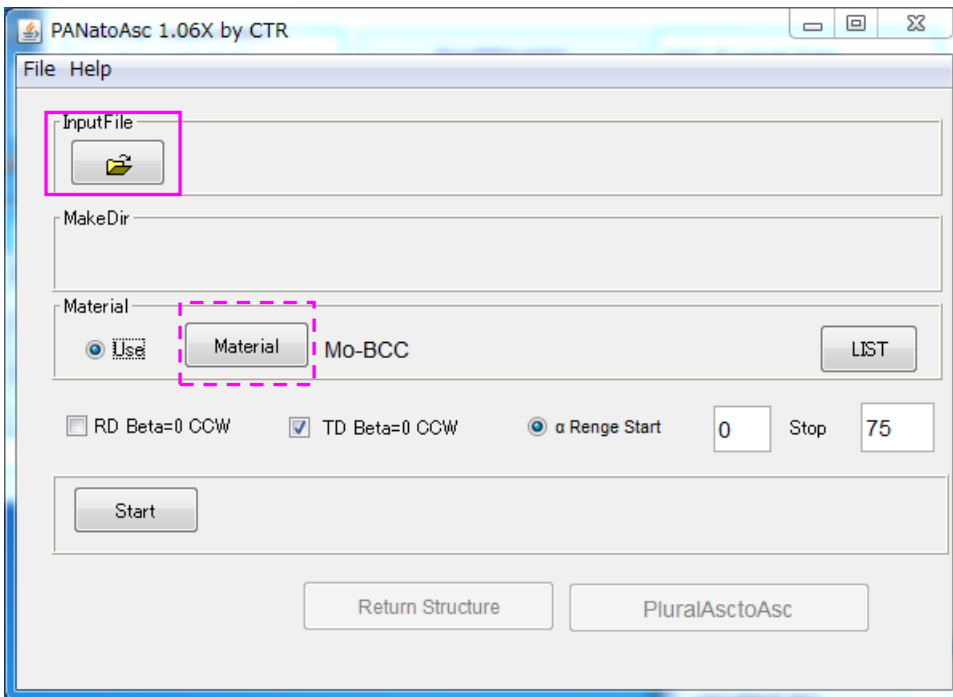
ODFPoleFigure2 (あるいは ODFPoleFigure1_5) ソフトウェアを起動



TooKit より **MeasureDatatoASCTools** を選択

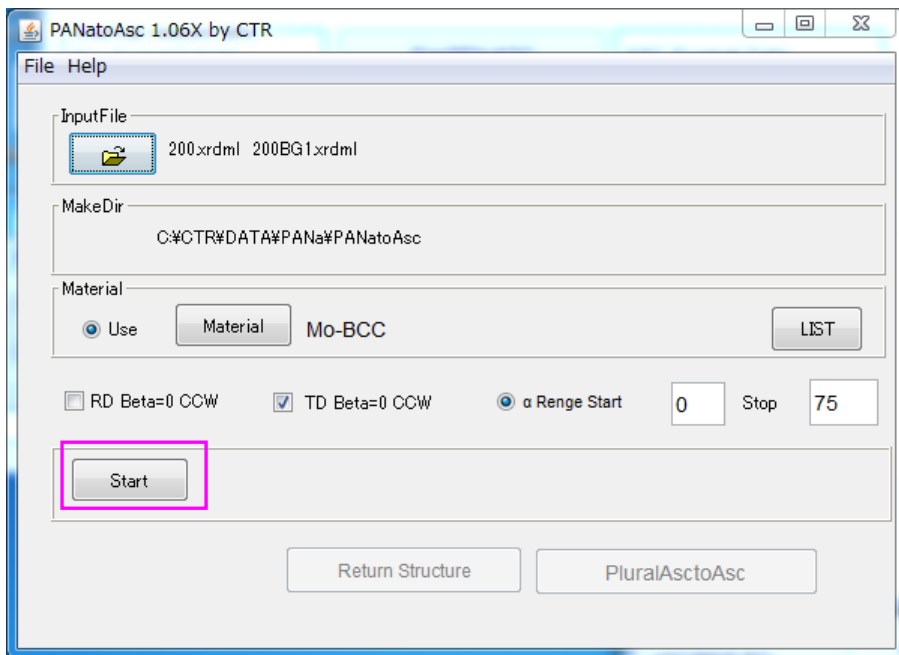


MeasureDatatoASCTools の **PANatoAsc** で xrdml ファイルから Asc 変換ソフトが立ち上がる



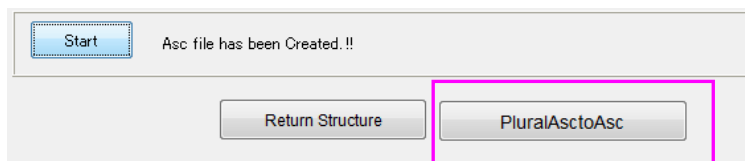
処理する材料の変更が必要なら **Material** で指定を行う。

処理するピーク極点とバックグラウンド極点を選択（同時複数の極点図選択も可能）



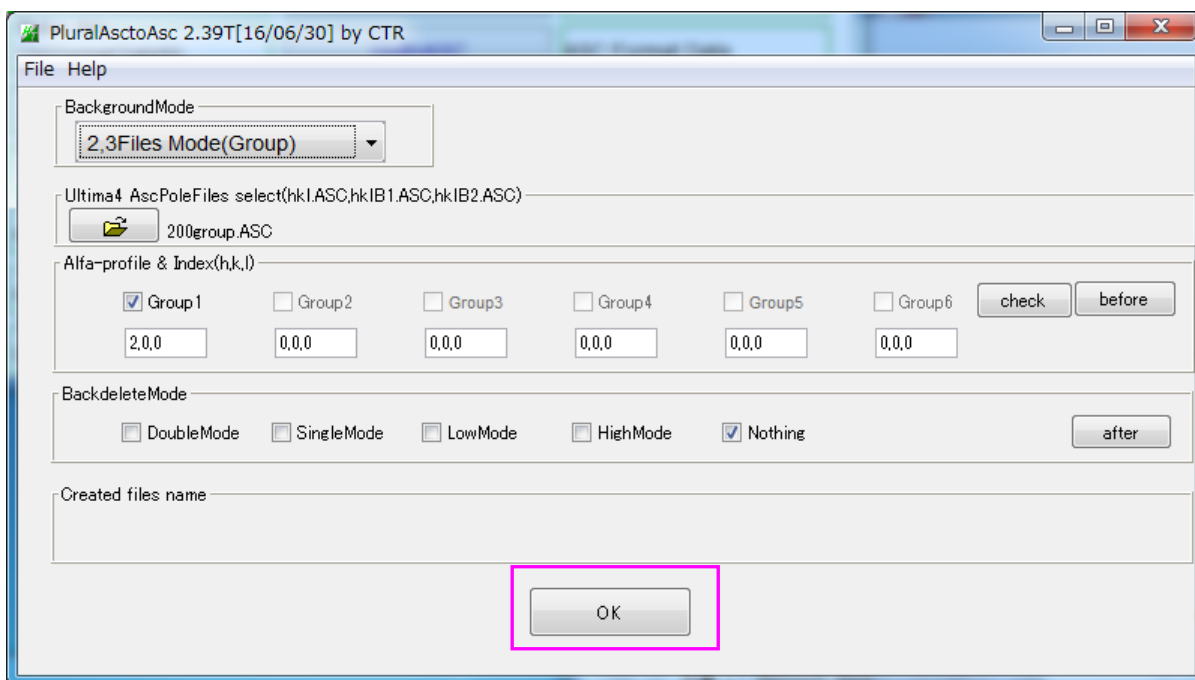
上記はモリブデンの {200} 極点図と {200} 極点図のバックグラウンド xrdml ファイルが選択されています。

Start で xrdml ファイルから Asc ファイルへの変換が実行されます。



Asc ファイルへの変換が完了すると、PluralAsctoAsc のコマンドが選択可能になります。

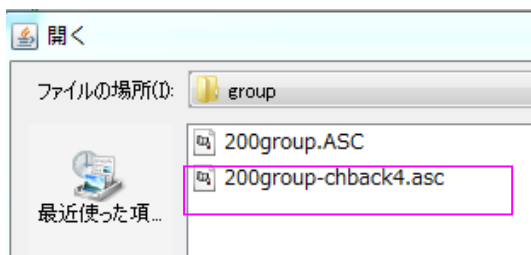
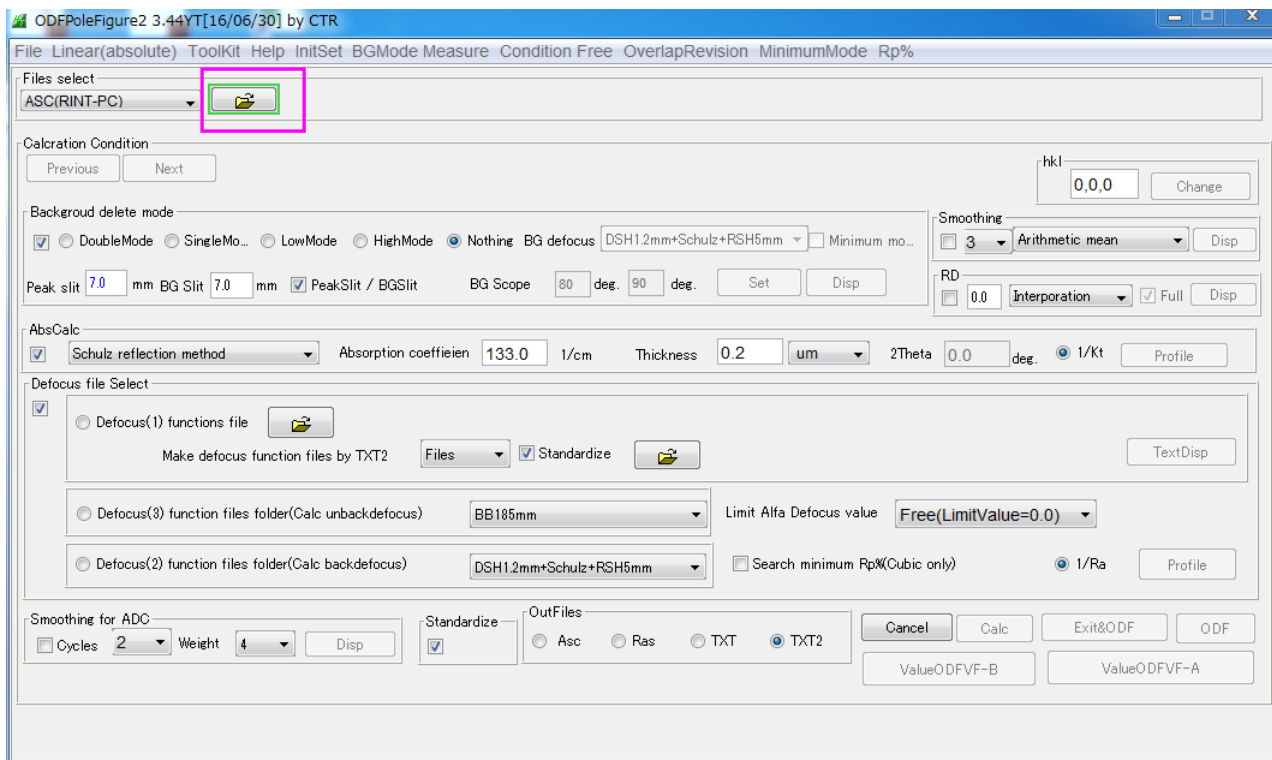
PluralAsctoAsc で PANatoAsc ソフトウェアが終了し PluralAsctoAsc が表示されます。



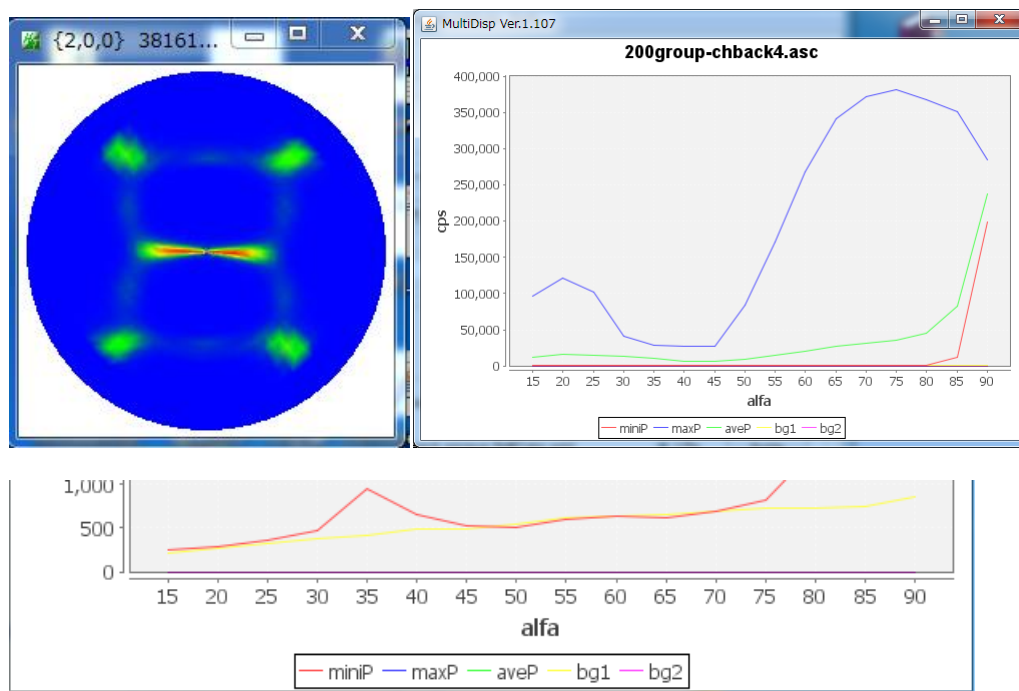
結合されたファイル表示、group 化される {200} 極点図が表示されています。

OK で PluralAsctoAsc ソフトウェアが終了します。

ODFPoleFigure2 ソフトウェアのファイル選択で選択すべきファイルが表示されます。



Group 化されたファイルを選択します。(複数選択が可能)、選択と同時に極点図が表示されます。バックグラウンドも登録されているか確認出来ます。



後は通常の処理が可能になります。(黄色がバックグラウンド)